

2025.6.25

Dance Base Yokohama



Dance Base Yokohama (DaBY) 開業5周年 | 横浜から、ダンスの未来を更新する 人とまちをつなぐ1階新スタジオを8月オープン | 5周年記念イベントも開催予定

Dance Base Yokohama (以下、DaBY) は、2025年6月25日に開業5周年を迎えました。

この5年間、「フェアクリエイション宣言」の考え方をもとに、公正でひらかれた環境づくりをめざし、「創作環境の整備」「次世代クリエイターの支援」「国際ネットワークの構築」を柱に、愛知県芸術劇場との共同製作や、各地の劇場・文化機関との連携などのほか、国内外の多様なアーティストとともに制度や地域の枠を越えた協働の場を継続的に実現してきました。

2023年度には運営のセガサミー文化芸術財団が、メセナアワード2023でメセナ大賞を受賞。評価の対象となったのは理念や構想だけではなく、連携の現場で積み上げてきた具体的な行動と協働の継続性でした。

2024年度には、文化庁の支援を受けた若手クリエイターの海外展開プロジェクト“Wings”が始動。5年にわたるこの取り組みは創作の現場にとどまらず、支援や発信のあり方を問い直しながら、再演の機会づくりや、国際共同制作を通じた交流の持続をめざしています。

実践を通じて築く、新たな関係のかたち

これまでの蓄積を踏まえ、私たちはいま一度、自らの活動のあり方を見つめ直しています。創作や支援を特定のかたちに閉じるのではなく、人や動きの中に生まれる開かれた場を、いかに育てていけるか。実践の中で感じた手応えや違和感に立ち返りながら、新たな歩みをはじめます。

2025年8月1日、新たな活動の拠点としてDaBYは現在のスタジオの1階に新たなスタジオを開設します。まちと出会い、声を交わし、動きが共有されるこの場は、次の5年をかたちづくる拠点となります。5周年を記念したイベントも8月に開催予定です。

次の5年に向けて、「出会い」「応答」「つながり」の3つの軸を深めながら、身体を起点にしたダンスの未来を、社会とともに更新していきます。

DANCE BASE YOKOHAMA



上の段

左：トークの様子 (2025/6/22 Priyakshi Agarwal 「Time to Stop」 パフォーマンス+トークより)

中央：ダンスと音楽によるパフォーマンスの様子 (2022/9/17 OpenLab vol.10 音楽×ダンス即興セッション ～からだ楽で、音おどる～より)

下の段

左：だれでも参加可能なダンスワークショップの様子 (2024/11/4 Dance Well ワークショップより)

中央：OpenLab 子ども向けワークショップの様子 (2020/8/15 OpenLab 子どもダンスワークショップより)

1階新スタジオの模型より

まちにひらかれた交流拠点へ——地域とつくる、1階 新スタジオ

DaBYの新スタジオは、広場に面した1階に位置し、人と人が交差する空間として2025年8月、「celldivision group×Dance Base Yokohama」内にオープンします。これまでのKITANAKA BRICK&WHITE (北仲ブリック&ホワイト) の3階に位置していたスタジオとは異なり、1階では地域の方々との接点や偶発的な出会いを重視した設計となっており、横浜を拠点にブランディングやデザインの領域で活動するセルディビジョングループ、空間設計を担うオンデザインパートナーズと共同で運営します。

週末や平日夜には、参加型のワークショップ、トーク、小規模なパフォーマンスなどを展開予定。新たなスタジオの誕生によって、活動の広がりにも柔軟な余白が加わることを期待しています。地域との関係づくりも進めています。

地域とつながる3つの展開——出会い、応答、つながりの場へ

1 | 日常の中にダンスを：出会いの場として

新スタジオでは、地域住民や通勤者など、これまでDaBYと接点のなかった人々が身体表現と出会う場をつくります。参加型のワークショップやトーク、小規模なパフォーマンスなどの定期開催によって「見る」だけでなく、ともに関わる関係性を育んでいきます。

2 | 問いを育てる：応答の場として

3階スタジオでの創作に加え、アーカイブやリサーチを活用し、現代的なテーマに応答する対話型のプログラムも構想中です。読書会やトークイベントなど、ジャンルを越えて交差する余白を育みながら、「都市の中のサードプレイス」としての可能性を広げていきます。

3 | ひらかれた発信拠点へ：つながりの場として

2024年度より文化庁の支援を受けて始動した「世界に羽ばたく次世代クリエイターのためのDance Base Yokohama 国際ダンスプロジェクト “Wings”」では、若手12名のクリエイターが海外での創作・上演に挑戦。メンターとの協働を通じて、再演や国際共同制作の機会を広げています。今後はネザーランド・ダンス・シアター (NDT) をはじめとした海外カンパニーとの連携やアジア諸国との協働も視野に、双方向の創造的交流を加速させていきます。

DANCE BASE YOKOHAMA

DaBYフェアクリエイション宣言

Dance Base Yokohama (DaBY) は、健全な創作環境を構築するため、

1) 創作に関わるすべての人がキャリアや立場を超えて尊重し合うこと

2) 観客を含めた第三者が参加するオープンな空間を創出すること

を宣言し、その取り組みをフェアクリエイションと名付けました。

フェアクリエイションとは、「フェアトレード」の考え方を応用したDaBY独自の概念です。

DaBYは、観客が創作過程から作品を見守り、フラットな環境でつくられた作品を選択・鑑賞することを通じ、ともに持続可能なダンス環境を生み出していくことをめざします。

DaBY これまでの5年間の受賞実績

	「ダンスを社会にひらく」コンセプトが評価され、2020年度グッドデザイン賞受賞
2020	*DaBYがダンス関係者の国際的な交流の場となることや、他分野との交流、次世代の表現者の育成、コンテンポラリーダンスと社会との関わりを問う活動など、幅広い活動目的のもとに誕生した施設であることをうけて
2021	クリエイティブユニット SPREADによりデザインされたDaBYロゴマークが東京TDC賞2021に入選
	アーティストックディレクターの唐津絵理が、令和4年度芸術選奨文部科学大臣賞 芸術振興部門 大臣賞を受賞
2022	*公共プロデューサー及びDaBY立ち上げへの参画、愛知県芸術劇場との連携成果となる「パフォーミングアーツ・セレクション」による全国ツアーによるダンスの多様性の提示、アーティストのための安心安全な環境作りと創客の観点の取組などをうけて
	「メセナアワード2023」メセナ大賞を受賞
2023	*実験的なプログラムを企画し、社会にひらかれたダンスハウスとして多様な人々の交流を促進し、ダンス文化の発展と改革に向けて挑戦している点へ評価をうけて
2024	文化芸術活動基盤強化基金におけるクリエイター・アーティスト等育成事業【舞踊部門】3事業のうちの1つとして採択

2020年度～2024年度までの活動実績

これまでに製作/愛知県芸術劇場と共同製作した作品数：15作品（詳細：<https://dancebase.yokohama/production>）

製作/共同製作した作品の国内外での回数：67公演（一般公開のみ/DaBYでのワークインプログレス/ショーイングを含む）

ゲスト/レジデントアーティスト数：49組（2020年の新型コロナウイルスを受けての支援アーティストを含む）

活動してきたレジデントダンサー数：37組

DaBY クリエイティブスタッフ

アーティストックディレクター: 唐津絵理

マネージングディレクター: 勝見博光

国際関係担当/レジデントアーティスト: 鈴木竜

アドミニストレーター: 宮田美也子

アシスタントディレクター: 田中希

クリエイティブスタッフ: 神村結花

クリエイティブスタッフ/ハウスドラマトウルク: 丹羽青人

リーガルアドバイザー: 東海千尋

財団担当マネージャー: 福田将人